

大阪市立図書館

100 年史

100 years of OSAKA Municipal Library

from

1921

to

2021

大阪市立中央図書館

目 次

はじめに	3
大阪市立図書館100周年に寄せて 大阪市長 松井一郎	4
大阪市立図書館100周年を祝して 大阪市教育委員会 教育長 山本晋次	5
第1章 開設から戦後の3館体制まで 1921～1969	7
第2章 地域図書館建設から1区1館達成まで 1970～1989	17
第3章 地域図書館5万冊事業と図書館電算化、新中央図書館建設 1989～1995	27
第4章 中央図書館リニューアルオープンと地域図書館建替開始 1996～2002	39
第5章 2つの図書館改革 2003～2011	51
第6章 知識創造型図書館の発展をめざして 2012～2021	65
第7章 市史編纂事業 1901～2021	79
資料編	85

はじめに

現在、図書館は、赤ちゃんから高齢者までだれもが一人の利用者として、読書の楽しさを体験できる場であると同時に、身近な課題の解決に役立つ地域の知の拠点としての役割を担う施設です。

大阪市立図書館は、本年100周年を迎えました。100周年という節目を迎え、これを記念し、大阪市立図書館の100年のあゆみを市民の皆様にご覧いただけるよう、本書を発行することにしました。本書は、阿波座図書館、西野田図書館、御蔵跡図書館、清水谷図書館が開館した1921(大正10)年から2021(令和3)年3月までを7章に分けて、そのあゆみを振り返ります。巻末には資料編として、図書館一覧や名簿、統計などを添えました。

100年のうちには、戦争によるサービスの中断や昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大による休館もありましたが、大阪市民の皆様にとって身近な図書館として、図書の提供はもとより、読書に親しむための行事・イベントの開催など多岐にわたるサービスを続けてきました。時代の変遷とともにその姿やサービスは大きく変えてきましたが、どの時代にあっても数多くの利用をいただき、また支えをいただき、市立図書館は市民の皆様とともに歩んできた今、実に感慨深く感じています。今後も引き続き、市民の皆様にとってより良い図書館となるよう、また、図書館がより皆様の身近な存在となるよう、日々努めてまいります。

これから先、大阪市立図書館は、資料の充実はもとより、安心してくつろげる館内づくりをめざし、地域図書館の建替や閲覧室の改装などに引き続き取り組んでまいります。また、これまで実施しているサービスを継続しながら、時代に即したサービスの提供にも積極的に取り組んでまいります。とりわけ、社会全体のICT化が進み、さらにウィズコロナの社会変容が求められる中、図書館に行かなくてもサービスが受けられる、電子書籍をはじめとする非来館型サービスの充実に取り組みます。

図書館は、支え合い共に生きる社会を創る、地域の生涯学習の基盤施設の一つでもあります。人と人、人と情報の出会いの場となるよう、また、一人一人の学びやその活動がさらに広げられるよう、様々な団体、企業、そして全市で約2,500名の読書活動支援ボランティア、読書会メンバーなど多くの市民の方々との協働を進めてまいります。

多くの皆様にご感謝を申し上げますとともに、これからも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大阪市立中央図書館長 飯田 明子

大阪市立図書館100周年に寄せて

大阪市長 松 井 一 郎



大阪市では、1921(大正10)年に、西野田、阿波座、御蔵跡、清水谷の4つの市立図書館を開館し、今年で100周年を迎えました。

現在の大阪市立図書館は、地方自治体最大規模の図書館情報ネットワークシステムで24の図書館を結び、約430万冊の蔵書を一体的に運用しており、地方自治体では最大の利用があるなど、市民の皆さんに大いに親しまれています。

また、近年は、本市ICT戦略に沿い、ICTアクションプランを作成し、電子図書館機能の利用促進を図るなど積極的な取り組みを進めています。これに沿ったデジタルアーカイブのオープンデータ化とその利活用に向けた取り組みは、図書館界での評価にとどまらず、公立図書館では国内では初となる「総務省 ICT 地域活性化大賞優秀賞」の受賞に結びついています。

子どもの読書活動についても、約2,500名の読書活動支援ボランティアとともに精力的な活動を行い、これにより文部科学大臣から表彰を受けているところです。

このほか、学校への支援、区役所や子育て支援施設など地域施設との連携など、市立図書館は本市において欠かせない施設としてその意義を果たしています。

本市ではただいま2025(令和7)年に夢洲において開催する「2025大阪・関西万博」の準備を進めています。新型コロナウイルス感染症を克服し、テーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を実感できる、記念すべき博覧会にしたいと考えています。大阪市立図書館においても、これまで蓄積してきたノウハウや経験を活かし、未来社会をイメージした新しいデザインを描いていくことを期待します。

最後になりましたが、大阪市立図書館とともに学校や各種施設で活動いただいている読書活動支援ボランティアの皆さん、様々な形で図書館を支えていただいている皆さんに感謝の言葉を記しまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

大阪市立図書館100周年を祝して

大阪市教育委員会 教育長 山 本 晋 次



大阪市立図書館100周年について、市民の皆様とともに慶びたいと思います。

日頃は、図書館資料の閲覧や貸出、行事への参加などの利用をいただき、また、たくさんの方々にボランティアとして図書館や学校、様々な施設でご活動いただいておりますことに深く感謝申し上げます。

現在の大阪市立図書館は、自治体最大規模の中央図書館、23の地域図書館、2台の自動車文庫による市内105カ所のステーションをサービスポイントとしているほか、学校園、子育て支援施設、高齢者福祉施設などへ読書活動支援ボランティアを派遣するなど、幅広い取り組みを行っております。

市立図書館は、「いつでも、どこでも、だれもが、課題解決に必要な情報にアクセス可能な創造都市の知識・情報基盤」である“知識創造型図書館”をめざすなかで、「知識を創造する図書館へ」、「人と、心を育てる図書館へ」、「学校支援の機能強化」、「効率的な運営体制の確立」の4つの基本方針を定めております。この基本方針のもと、今後ますます市立図書館が市民の皆様生活に役立つものとなるよう、努めてまいりたいと考えております。

私が小学校に入学した頃、大阪市立図書館は中央図書館と天王寺図書館、桜宮図書館の3館だけでした。蔵書数は3館合わせて10万冊を超えたばかりだったようです。その後、飛躍的な発展ができましたことは、市民の皆様からのお支えや市関係者の皆様からのご理解の賜物と考えています。厚く御礼申し上げます。今後も引き続き、ご理解とお力添えを賜りますようお願いいたします。

昨年来、新型コロナウイルス感染症拡大により、図書館も学校園も様々な制約の中で通常の運営ができず、市民の皆様には多大なご迷惑やご心配をおかけしております。一日も早くこの危機から脱して、様々な活動を再開できるようにしたいと考えます。また、この機会に、教育のあり方について、様々な面で改善を進めていくことが必要だろうと考えております。

輝かしい未来のため、図書館、そして本市教育行政全般の発展に向けて、市民の皆様お一人お一人と引き続き手を携えてまいりたいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

おことわり

本文中、当時の資料・文献等からそのまま引用した結果、現在では人権その他の観点から不適切と思われる用語が含まれている場合がありますのでご了承ください。